

国立西洋美術館のポートフォリオについての比較研究

[論文]

加藤道夫*, 加藤直子**, 寺内朋子***

Comparison of the Portfolios on the National Museum of Western Art

Kato Michio, Kato Naoko, Terauchi Tomoko

The aim of this paper is to clarify differences between portfolios of NAMA (National Archives of Modern Architecture) and NMWA (The National Museum of Western Art) and their relations to original drawings of FLC (Fondation Le Corbusier). The result is as follows: 1) There are differences that are beyond measurement errors in some plate layouts. 2) The colorings of NAMA's and NMWA's show subtle differences, both of which are different from those of the drawings of FLC. It suggests that both colorings are independent from each other. 3) Finally, we judge that both portfolios have different origins with different colorings.

キーワード：国立西洋美術館、国立近現代建築資料館、ル・コルビュジエ、ポートフォリオ

1. はじめに

国立西洋美術館（以下「西洋美術館」）のポートフォリオは、1956年7月9日（作成年月日）の3枚の建築図面と共に、1956年7月18日に送付されたとされてきた¹。千代はその典拠についてル・コルビュジエ財団（Fondation Le Corbusier）が所蔵する（以下「財団蔵」）1956年7月10日（作成年月日）の「東京、西洋美術館の建設に関するル・コルビュジエの注釈（note）」（以下「注釈」）を挙げている（千代，2016，pp. 281–286；寺島・千代，2017，pp. 42–44）²。

関連して、二つのポートフォリオが存在する。以下にその内容に関する記載を日本における紹介順に示す。

一つが、西洋美術館が所蔵するポートフォリオ（以下「西洋美術館蔵」）である。同ポートフォリオは、2004年に西洋美術館が画商を通じて購入し、2009年に開催された『開催50周年記念ル・コルビュジエと国立西洋美術館』展に展示された。これについて同展カタログには次のように説明されている。「ル・コルビュジエは、設計がまとまった段階で、アルバム³という形でコンセプトを整理することがしばしばある。（中略）本アルバムは、『国立西洋美術館』の基本設計⁴が終了した時点でまとめられたもので、基本設計で提案された美術館以外の付属施設を含む全体計画の模型、基本設計図面、スケッチが収録されている」（寺島，2009，p. 88）。

もう一つは、国立近現代建築資料館が所蔵するポートフォリオ（以下「資料館蔵」）である。同ポートフォリオは、同館で2015年に開催された『ル・コルビュジエ×日本』展で展示され、展覧会後に坂倉家に返却された後に当館に寄贈された（2021年1月贈与契約締結）。これについ

て同展カタログには以下のように記されている。「ル・コルビュジエから1956年7月に送られてきた基本計画を説明するための全27枚⁵のポートフォリオ」（文化庁，2015，p. 30）。付言するなら、展覧会に際してつくられた上記のポートフォリオの複製（以下「資料館複製」）が当館に存在する。

以上のように二つのポートフォリオは、それぞれ独立して、あたかも1956年7月に作成され日本に送付されたポートフォリオであるかのように紹介されてきた。しかし、二つの異なるポートフォリオが存在することが示すように、これらが1956年7月に日本に送付されたポートフォリオそのもの（以下「オリジナル〔正本〕のポートフォリオ」）であるという確証はない。

次に二つのポートフォリオの差異についても明確にされてこなかった。また、二つのポートフォリオに掲載された模型写真や建築図面が財団蔵の模型写真とスケッチを含む建築図面（以下「原図」）とどのような関係にあるのかについても不明確である⁶。

本研究の目的は、以上のように独立して紹介されてきた二つのポートフォリオの差異とそれらと財団蔵の模型写真や原図との関係を明確化することである。そのために、必要に応じて財団蔵の模型写真や原図を参照しながら、二つのポートフォリオの調査を行い、比較検討を行った。本稿はその結果をまとめたものである。

2. 調査の方法と内容

調査方法は以下の通りである。

1) 調査の前段階として注釈に着目し、ル・コルビュ

*国立近現代建築資料館 主任建築資料調査官、工学博士 **国立近現代建築資料館 研究補佐員、博士（学術）
***国立近現代建築資料館 研究補佐員、修士（工学）

ジエ事務所 (Atelier Le Corbusier) から日本に送付されたオリジナルのポートフォリオがどのようなものであったかを確認する。

2) 次に資料館蔵と西洋美術館蔵の比較調査を行う。調査にあたっては、財団が保有する模型写真や原図を可能な限り参照し、それらとの差異を検証しつつ行った⁷⁾。

a) 資料館蔵については、2020年11月以降、翌年4月にかけて、随時調査を行った。

b) 西洋美術館蔵については、下記の調査を行った。まず、2020年12月24日に加藤道夫が西洋美術館にて同館所蔵について予備調査を行い、資料館蔵との相違をまとめた。この結果を踏まえて、2021年4月12日に加藤道夫、加藤直子、寺内朋子の3名が、資料館複製を持参して西洋美術館蔵の再調査(以下「詳細調査」)を行い、予備調査で明らかになった相違を確認した。

3) 以上の調査をもとに、両ポートフォリオの差異とそれらの関係、具体的には前者が後者と同一なのか、あるいは前者が後者の複製であるのか、だとするならどのような手段で複製されたのかについての検討結果をまとめる。

3. 注釈に見るオリジナルのポートフォリオの概要

3.1. 注釈に見るポートフォリオ

「注釈」には以下のように記されている。「25枚の図版 [planches]⁸⁾ からなる CIAM グリッド [la grille CIAM] と数葉の計画図 [plans]⁹⁾ の形で提出された計画 [projet] は、1955年12月からのすべての検討を示している」(筆者訳)。

補足するなら、CIAMグリッドとは「都市計画の課題の分析、総合と表示のために、1947年12月に ASCORAL によってつくられ、1948年3月28日～31日パリで開かれた CIAM の評議会の春季の会合で採用された」ものであり、その判型について「〈グリッド〉そのもの (21×33cm の判型シート)」と記されている (ボジガー, 1978, p. 38)。

以上から、注釈における「25枚の図版からなる CIAM グリッド」がオリジナルのポートフォリオに該当し、数葉の図面が1956年7月9日(作成年月日)の「Mu. TO. 5400-5402」という表題が記された3枚の図面に該当すると考えて差し支えないだろう。

3.2. 注釈が示唆するポートフォリオと

二つのポートフォリオとの対応

二つのポートフォリオの判型を見てみると、いずれも

21×33cmであり、注釈における「CIAM グリッド」に則っている。

資料館蔵は26枚のプレートからなる。対して西洋美術館蔵には末尾にプレート番号なしの「19世紀大ホール」のスケッチが掲載されたプレートが付け加えられている¹⁰⁾。

注釈における「25枚の図面」という記述に関して補足すると、どちらも図面番号は25で終わっており、1枚多いのは「16bis」という図面が挿入されているからである。

注釈には模型写真について次のように記されている。「取り外し可能な模型を製作した。(中略) 模型は壊れやすいため検討が終わるまで郵送できない。しかし、全体と取り外した状態の約20枚の模型写真によって、下記の内容を示しうるだろう。(後略)」(筆者訳、下線筆者)。二つのポートフォリオの模型写真プレートの枚数はいずれも15枚であり、注釈の記述「約20枚」と若干相違がある。

4. ポートフォリオの比較結果

4.1. ポートフォリオの構成

西洋美術館蔵の末尾に加えられた27枚目(プレート番号なし)の図版を除けば、両ポートフォリオは以下のような構成を持っている。

1) pl. 1から15までの計15枚のプレート。左に模型写真を配置し、右にタイプ原稿による説明が加えられている(以下「模型写真プレート」)。

2) pl. 16から16bisを挟んで21までの計7枚のプレート。左に建築図面を配置し、右にタイプ原稿による説明が加えられている(以下「建築図面プレート」)。

3) pl. 22から25までの計4枚のプレート。左に建築スケッチを配し、右にタイプ原稿による説明が加えられている(以下「スケッチプレート」)。

4.2. ポートフォリオのプレート順序とレイアウト

次に指摘しておきたいのは、資料館蔵は pl. 12と13の順序が入れ違っていることである。それは日本に送付されたオリジナル(正本)でない可能性を示唆している。対して西洋美術館蔵では入れ違いが認められなかった。

次に二つのポートフォリオの各プレートのレイアウト比較を行った。いずれも左に模型写真、建築図面、もしくは建築スケッチ等の図面を配し、右に帯状のタイプ原稿を配置するという同様なレイアウトを持っている。そこで両者がまったく同一のレイアウトであるかを確認するため、詳細調査において各プレートの右端から図版部

分右端までの距離を測定した。その結果、多くのプレートで数mmの違いがあることが確認された。以下に3mm以上の違いがあるプレートを列挙する(単位mm)。

- pl. 2: 資料館蔵100、西洋美術館蔵96
(資料館蔵の模型写真の左端が微妙に孔にかかる)
- pl. 4: 資料館蔵100、西洋美術館蔵97
(資料館蔵の模型写真の左端が微妙に孔にかかる)
- pl. 11: 資料館蔵90、西洋美術館蔵83
- pl. 14: 資料館蔵75、西洋美術館蔵67-68
- pl. 15: 資料館蔵71、西洋美術館蔵68
- pl. 16: 資料館蔵62、西洋美術館蔵65
- pl. 18: 資料館蔵61、西洋美術館蔵64

模型写真端部の境界は若干斜めになっているものもあり、計測誤差や pl. 2、4のように模型写真の裁ち落としの際に生じた不作為の誤差である可能性は否定できない。しかし pl. 11、14に見られるような5mmを超える差は計測誤差や不作為の裁ち落とし誤差とはいえない可能性を孕んでいる。

以上の計測結果は、両ポートフォリオが少なくとも親子関係(一方が他方の複製)にはなく、それぞれ独立して制作された可能性を示唆している。

4.3. タイプ原稿の貼り付け

資料館蔵の pl. 10、11、15にはタイプ原稿貼り付けの痕跡と想定される境界線が認められた。また、pl. 16から16bisを挟んで pl. 21までの7枚のプレートはすべてタイプ原稿が建築図面プレートの上に貼り付けられている。対して西洋美術館蔵では貼り付けは認められず、その明確な痕跡も発見できなかった。

4.4. 鉛筆による書き込み

資料館蔵には以下の書き込みが見られる。pl. 15には模型写真の下端付近にわずかに傾いた鉛筆による直線とその下に矢印が加えられている¹¹。pl. 21には、屋上の両端に室外機を示すと考えられる矩形と矢印が加えられている。また、下記のプレートの裏面には以下の書き込みが見られる。pl. 6に「1」、pl. 11の裏面に「2」、pl. 12に「3」、pl. 15に「4」、pl. 16bisに「5」、pl. 23に「12」、pl. 25に「14」¹²(図1, 表1, 表2, 表3)。

対して西洋美術館蔵には以下の書き込みが見られる。pl. 11のタイプ原稿下に「6」¹³。そのほか、pl. 12のタイプ原稿の「右 [droite]」上部に鉛筆で「左 [gauche]」。

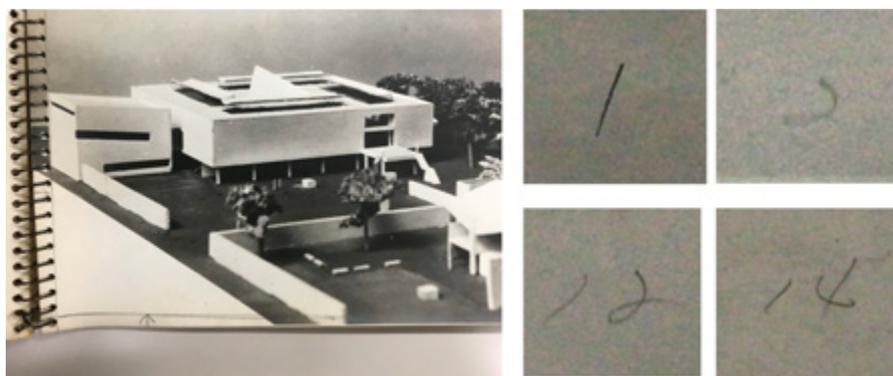
4.5. 模型写真プレートの比較 (表1)

4.5.1. 模型写真プレートにおける模型写真の同定

以下では、財団蔵の模型写真や図面を参照しつつ、模型写真プレート、建築図面プレート、建築スケッチプレートの3つの部分にわけて、両ポートフォリオの比較結果をまとめる。

模型写真プレートの比較に入る前に、両ポートフォリオに掲載された西洋美術館の模型写真が設計段階のどの案に対応するかの同定を行った。なぜなら、斜路の位置が実現案とつながる両ポートフォリオに掲載された建築図面と異なっているからである。この点に着目して財団蔵の建築図面を参照すると、この模型写真は、アンドレ・メゾニエが1956年3月から4月にかけて作成した図面に対応していることがわかった¹⁴。

次に両ポートフォリオに掲載された模型写真の同定を行った。西洋美術館の模型写真については、財団に計70枚の写真が存在する(資料番号L3-17-1)。それは以下



pl. 15 下端における書き込み

裏面における数字の書き込み

図1 資料館蔵ポートフォリオへの書き込み

表1 ポートフォリオの模型写真プレートの比較

プレート 番号	資料館蔵		西洋美術館蔵		ル・コルビュジェ財団蔵写真			備考
	プレート	部分詳細	プレート	部分詳細	メゾニエ選択FLC写真 (トリミング, 回転済)	FLC資料番号	メゾニエが選択したFLC蔵 写真リスト (対応部分)	
1						L3-17-1(60)		
2						L3-17-1(57)		資料館蔵に以下の彩色。 美術館に赤の彩色。一般 動線(黄)とサービス動 線(紫)を示す矢印
3						L3-17-1(59)		
4						L3-17-1(57) 部分		
5						L3-17-1(59) 部分		
6						L3-17-1(60) 部分180度 回転		資料館蔵裏面に「1」の 書き込み
7						L3-17-1(57) を270度 回転		
8						L3-17-1(63) 270度 回転		西洋美術館蔵に赤いシミ 資料館蔵にはなし
9						L3-17-1(65)		
10						L3-17-1(64)		
11						L3-17-1(59) を15度 回転		資料館蔵裏面に「2」の 書き込み。西洋美術館蔵 表面に「6」の書き込み
12						L3-17-1(55)		資料館蔵では pl.12 と 13の順序が逆。資料館蔵 裏面に「3」の書き込み
13						L3-17-1(60)		両プレートに同一の汚れ あり。ポートフォリオ写 真の上部背景が財団写真 より広い。資料館蔵では pl.12と13の順序が逆
14						L3-17-1(62)		
15						L3-17-1(56)		資料館蔵裏面に「4」の 書き込み。資料館蔵の模 型写真の下端に線と矢印 の書き込み

の枝番からなる計6枚のシートから構成される：[1-15]、[16-27]、[28-40]、[41-53]、[54-65]、[66-70]（寺島・千代，2017，pp. 54-56）。

このうち、[54-65]は12枚の模型写真からなる。このシートにはメゾニエによる以下の書き込みがある。「東京美術館 [Mu. Tokio] のグリッド [la grille] のために選択された写真 [dichés] A.M. (André Maisonnier の略)」。さらに同シートの12枚の模型写真の下にはプレート番号が記され、その内の写真番号57、59、61の下にはそれぞれ2つのプレート番号が記されている。

以上からポートフォリオに使用された全15枚の写真は財団蔵の模型写真と同定することができた。

4.5.2. 模型写真プレートの比較

次に模型写真プレートについて資料館蔵と西洋美術館蔵の比較を行った。以下にその比較結果を示す。

まず資料館蔵の pl. 2 では、西洋美術館部分が赤く彩色されている。対して西洋美術館蔵はモノクロの彩色痕跡が認められる。

次に資料館蔵では、黄色と紫の矢印が描かれている。黄色の矢印は来館者の動線を紫の矢印はサービス動線を示している。対して西洋美術館蔵にはそのような彩色や矢印の描き込みは存在せず、その痕跡すら認められない。とはいえ、pl. 2 はいずれも財団所蔵の L3-17-1 (54-65) にまとめられた模型写真 (57) を使用している点に違いはないことが確認された。以上から資料館蔵は財団蔵の模型写真のモノクロ印刷の上に彩色をほどこしたものと判断される。(図2)

また、複数のプレートで模型写真の版面が微妙に異なることが確認された。上記の結果も、両者に親子関係がなくそれぞれ独立に制作されたことを示している。

4.6. 建築図面プレートの比較 (表2)

4.6.1. 財団が保有する対応図面

建築図面プレートの比較に入る前に、両ポートフォリオに掲載された建築図面がどの原図に相当するかの同定を行った。その結果、それらは1956年7月9日の日付(作成年月日)図面に由来することを確認した。該当する図面の財団の図面番号(FLC****)と各プレートの対応関係は以下の通りである。

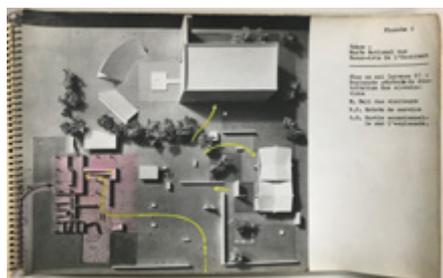
- 1) FLC24615がpl. 16の原図に相当する。pl. 16bisはその部分に対応する。ただし、資料館蔵に見られるような西洋美術館部分を彩色した図面は存在しない。
- 2) 4層(階)の平面図から構成されるFLC24616AとFLC24616Bがpl. 17からpl. 20の原図に相当する。後者は前者をモノクロ印刷したものに彩色をほどこしたものである。
- 3) FLC24617AとFLC24617Bがpl. 21の原図に相当する。後者は前者をモノクロ印刷したものに彩色をほどこしたものである。

4.6.2. 両ポートフォリオの建築図面プレートの概要

建築図面プレート7枚の内 pl. 16は西洋美術館を含む全体計画の配置図であり、16bisから20までは西洋美術館の各層(階)の平面図である。

資料館蔵では、前述のように別紙のタイプ原稿が貼り付けられており、pl. 16bisを除くすべてのプレートに彩色が施されていることが確認された。

対して西洋美術館蔵には、テキストの貼り付けも彩色もなくモノクロの建築図面とタイプ原稿が同一紙の左右に配置されていること、そしてグレーの彩色の痕跡が確認された(図3)。



資料館蔵 pl. 2



西洋美術館蔵 pl. 2

図2 両ポートフォリオの模型写真プレート(pl. 2)

4.6.3. 二つのポートフォリオの彩色の比較分析

次により詳細な彩色の比較分析を行った。ここでは pl. 21 (断面図) の分析結果を示す。

資料館蔵では、19世紀大ホールが青く彩色され、照明室からの光が黄色に彩色されている。対してモノクロの西洋美術館蔵では、青色の痕跡は認められず、黄色に彩色された部分のみ彩色の痕跡が認められる (図4)。

4.6.4. 財団蔵建築図面との彩色の比較

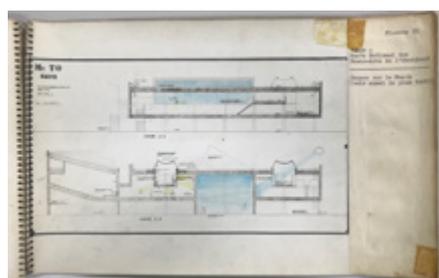
次に、財団蔵の彩色図面との比較を行った。前述のよ

うに、財団にはすべての建築図面プレートに対応する原図が存在する (FLC24615、24616A、24617A)。加えて pl. 16と16bisを除くプレートに対応する彩色図面が存在する (FLC24616B、24617B)。FLC24617Bは、トレーシングペーパーに黒インクで描かれた原図 (FLC24617A) のモノクロ印刷に水彩が施されたものである。比較に当たっては、資料館蔵、財団蔵のカラー図版をいずれもモノクロに加工して行った (図5)。以下に pl. 21 (断面図) の分析結果を示す。

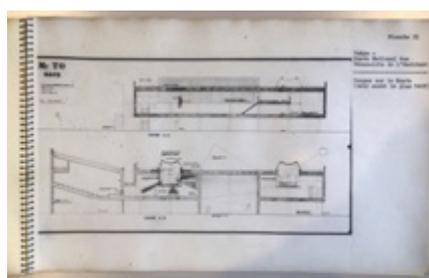
西洋美術館蔵、資料館蔵と FLC24617B の床スラブ

表2 ポートフォリオの建築図面プレートの比較

プレート番号	資料館蔵		西洋美術館蔵	ル・コルビュジェ財団蔵			備考
	プレート	備考		ポートフォリオ対応図面	FLC図面番号	日付 (作成年月日)	
16		FLC24615のモノクロ印刷に彩色 タイプ原稿貼り付け			FLC24615	1956年7月9日	
16bis		FLC24615のモノクロ印刷 タイプ原稿貼り付け 裏面に「5」の書き込み			同上部分	1956年7月9日	
17		FLC24616A (部分) の モノクロ印刷に彩色 タイプ原稿貼り付け			FLC24616B (部分)	1956年7月9日	FLC24616Aのモノクロ印刷に彩色
18		FLC24616A (部分) の モノクロ印刷に彩色 タイプ原稿貼り付け			FLC24616B (部分)	1956年7月9日	FLC24616Aのモノクロ印刷に彩色
19		FLC24616A (部分) の モノクロ印刷に彩色 タイプ原稿貼り付け			FLC24616B (部分)	1956年7月9日	FLC24616Aのモノクロ印刷に彩色
20		FLC24616A (部分) の モノクロ印刷に彩色 タイプ原稿貼り付け			FLC24616B (部分)	1956年7月9日	FLC24616Aのモノクロ印刷に彩色
21		FLC24617Aのモノクロ印刷に彩色			FLC24617B	1956年7月9日	FLC24617Aのモノクロ印刷に彩色



資料館蔵 pl. 21



西洋美術館蔵 pl. 21

図3 両ポートフォリオの建築図面プレート (pl. 17)

の断面部のポシェ（塗りつぶし）を比較すると、いずれも FLC24617A の赤色鉛筆の痕跡を保持していること（図5の赤楕円部参照）、すなわち、いずれも FLC24617A に起源をもつことが確認された。

次に資料館蔵と西洋美術館蔵との彩色領域を比較すると、微妙な差異が認められた。それは、資料館蔵のプレートに彩色と（モノクロ複製である）西洋美術館蔵のもとになった彩色プレートの彩色が独立して行われたことを示唆している。

また、資料館蔵と FLC24617B、西洋美術館蔵と FLC24617B について同様の比較を行った。その結果は必ずしも明確ではないが、同様の差異が認められた（図5の青楕円部参照）。

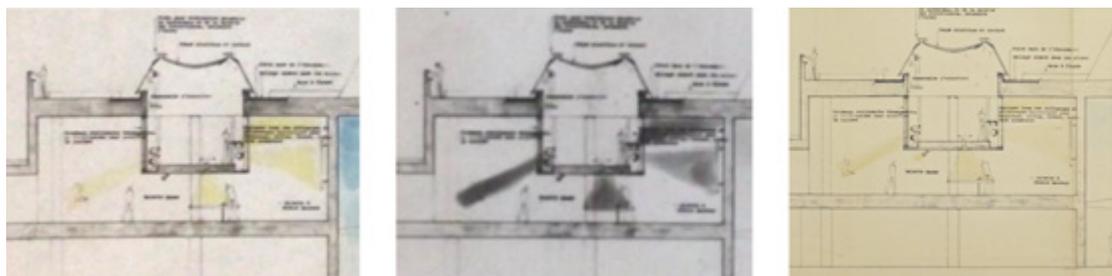
以上を総合すると、FLC24617B と資料館蔵の彩色

図面は、いずれも FLC24617A のモノクロ印刷に独立して彩色されたものであり、西洋美術館蔵も同様にして彩色された図のモノクロ印刷であると判断できる。

4.7. スケッチプレートの比較（表3）

pl. 22から25については、財団に原画スケッチとタイプ原稿を貼り合わせた図面が存在する（順に FLC29036D、29936E、29936B、29936C）。いずれもトレーシングペーパーに黒インクで描かれており、pl. 22、25は色鉛筆で彩色されている。

対して資料館蔵と西洋美術館蔵のプレートはいずれもモノクロであるが、色鉛筆による彩色の痕跡が見られる。しかも原画に見られるテープ跡の痕跡が両者の pl. 22、23と西洋美術館蔵の pl. 25に認められた（残りの

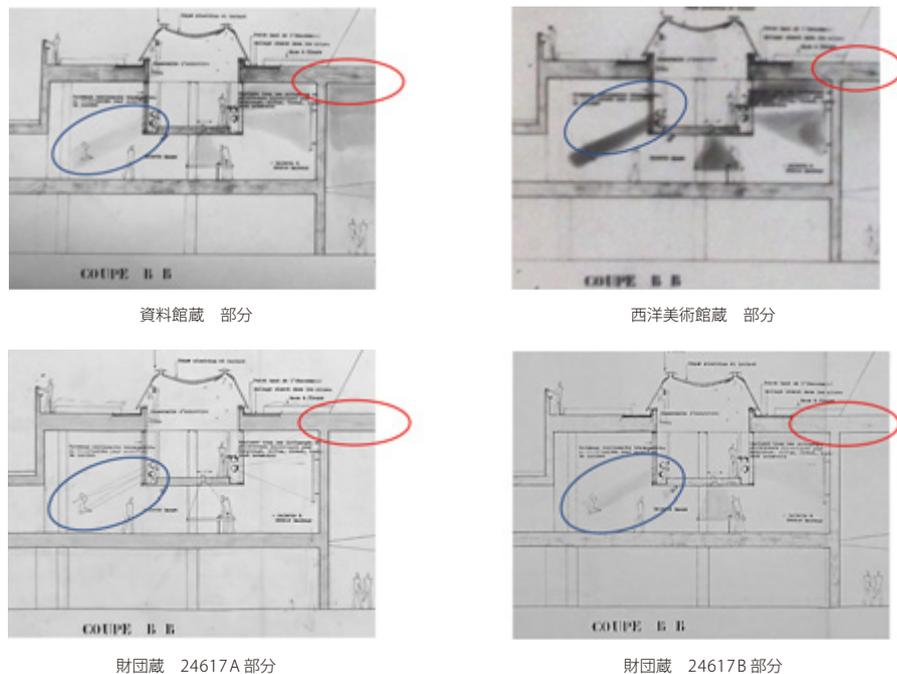


資料館蔵 pl. 21 部分

西洋美術館蔵 pl. 21 部分

財団蔵図面 FLC24617B 部分

図4 両ポートフォリオと財団蔵図面との彩色比較（pl. 21）



資料館蔵 部分

西洋美術館蔵 部分

財団蔵 24617A 部分

財団蔵 24617B 部分

図5 両ポートフォリオと財団蔵図面との彩色部分の詳細（pl. 21 部分）

表3 ポートフォリオのスケッチプレートの比較

プレート番号	資料館蔵		西洋美術館蔵	ル・コルビュジェ財団蔵			備考
	プレート	備考		ポートフォリオ対応図面	FLC図面番号	日付(作成年月日)	
22		FLC29936Dのモノクロ印刷			FLC29936D	未詳	トレベに彩色(色鉛筆)とタイプ原稿貼り付け
23		FLC29936Eのモノクロ印刷			FLC29936E	未詳	トレベに彩色(色鉛筆)とタイプ原稿貼り付け
24		FLC29936Bのモノクロ印刷			FLC29936B	未詳	トレベに彩色(色鉛筆)とタイプ原稿
25		FLC29936Cのモノクロ印刷			FLC29936C	未詳	トレベに彩色(色鉛筆)とタイプ原稿貼り付け
なし					FLC33443	1959年2月12日	FLC24648の印刷に彩色(水彩)とパステル(輪郭線)

プレートについてはテープの痕跡が未詳)。さらに、両者の pl. 24 の右下に原画と同じ位置の汚れが見られる。

以上を総合すると pl. 22 から 25 については、いずれも財団蔵の原画のモノクロ複製と考えると差し支えないだろう。

5. 結論

本研究の結果を要約すると以下のようになる。

- 1) 建築図面プレートの原図は財団蔵の Mu.TO. 5400-5402 であり、1956年7月9日の日付(作成年月日)である。対してポートフォリオの模型写真プレートは、前の段階の計画案(1956年3月から4月にかけて作成された図面)に対応していることを確認した。
- 2) 資料館蔵プレートには pl. 2、16、17、18、19、20、21 のプレートに彩色が認められる。対して西洋美術館蔵プレートはすべてモノクロプレートから構成される。ただし、pl. 2、16、17、18、21 には彩色の痕跡が認められる(表1, 2参照)。加えて資料館蔵の pl. 2 には矢印の描き込みが見られる。対して西洋美術館蔵の pl. 2 に矢印の描き込みは見られない。
- 3) 複数のプレートのレイアウトにおいて計測誤差や裁ち落としの差異に生じた不作為の誤差とは考えにくい差異が確認された。
- 4) 資料館蔵における建築図面プレートの彩色と西洋美術館蔵に見られる彩色の痕跡は、その領域が微妙

に異なっていることが確認された。

- 5) 以上から、資料館蔵は、財団蔵の模型写真、建築図面、建築スケッチをレイアウトしたモノクロプレートの一部のプレートに彩色を施して制作されたことがわかった。ただし、資料館蔵がオリジナル(正本)であるという確証は得られなかった。すなわち、オリジナル(正本)のポートフォリオではなく、試作品である可能性がある。
- 6) 対して、西洋美術館蔵は、資料館蔵とは別に制作・彩色されたポートフォリオのモノクロ複製であり、両者が親子関係にないことを示している。また、1959年2月12日(作成年月日)の図面のモノクロ印刷を含んでおり、その限りにおいて1956年送付のオリジナルのポートフォリオと同定できない。ただし、西洋美術館蔵がオリジナル(正本)のポートフォリオのモノクロ複製であり、27枚目のプレートが後から付加されたものであることは否定できない。

注

- 1) ポートフォリオ送付について藤木は「1956年7月到着の基本計画の説明ポートフォリオ表紙、内容は図面(淡彩着色)、模型写真、スケッチ(後略)」と記している(藤木, 2011, p. 123)。また、図面送付について寺島・福田は「7月18日、在仏西村大使、ル・コルビュジェより基本設計図3枚(Mu. To. 5400-5402)を受け取り、日本に送付」と記している(寺島, 2009, p. 148)。

- 2 財団資料番号AFLC, F1-12-174。同注釈 [note] の本文を日本で初めて紹介した千代は以下のように説明している。「1956年7月9日付けの東京の国立西洋美術館(1959)基本案図書に添付している説明文。ル・コルビュジェは図面と合わせて日本に送付している」(千代, 2016, p. 285 訳注)。同注釈末尾には「付随する技術的な覚書(ママ、原文 [note]) については、メゾニエが作成する」と記されている。
- 3 本稿では表記を統一するため、引用を除いて「ポートフォリオ」と表記する。
- 4 図面の内容は配置図、各階平面図と断面図のみであり、基本設計図と呼ぶには不十分な内容と言わざるをえない。
- 5 資料館蔵のプレートの枚数は1から16, 16bisを挟んで17から25までの計26枚である。表紙を含んで27枚となる。
- 6 千代(2016)は設計過程における建築図面に関する研究を行っている。しかし、ポートフォリオに掲載された模型写真や建築図面についての詳細な言及はない。
- 7 模型写真については、財団が所蔵する模型写真シートを参照した(資料番号L3-17-1: 以下に所収、寺島・千代, pp. 54-56)。図面については、Le Corbusier Plans Onlineを参照した。
- 8 25枚の図版 [planches] (図版には16と16bisがあるので正確には26枚の図面) とは模型写真15枚と建築図面7枚と建築スケッチ4枚からなる21×33cmの冊子(ポートフォリオ)をさす。
- 9 数葉の計画図 [plans] とは1956年7月に送付された3枚の青図 (Mu.TO. 5400-5402) を指す。仏語表記では「plans」であるが、断面図が含まれるので「計画図」と訳した。
- 10 このプレートは財団蔵の内観19世紀大ホールの内観スケッチ (FLC33443) のモノクロ複製であり、1959年7月12日の日付(作成年月日) が記載されている。同ホールでの写真壁画の展示の検討のために作成された。したがって、このプレートは1956年7月時点では存在せず、あとから付け加えられたと考えられる。それゆえ、加藤は西洋美術館蔵のポートフォリオはオリジナルのポートフォリオではない可能性を指摘している(加藤, 2017, p. 8)。
- 11 この書き込みは西洋美術館蔵には存在しない。資料館蔵の書き込みがル・コルビュジェ事務所で行われたとすると、当ポートフォリオが送付されたオリジナル(正本)ではなく、レイアウトのチェック用に作成された試作品である可能性を示唆している(注13末尾も参照)。
- 12 資料館蔵の裏面に「6」から「11」と「13」の書き込みはない。しかし、「6」から「11」の数は、pl. 17からpl. 22の枚数に対応する。したがって、「6」から「11」のプレートは、pl. 17からpl. 22に相当すると考えられる。同様に欠落する「13」はpl. 24に相当すると考えられる。以上から14枚のプレート群を以下のように特定できる: 模型写真プレート4枚 (pl. 6, 11, 12, 15)、建築図面プレート6枚 (pl. 16bisから21)、スケッチプレート4枚 (pl. 22-25)。ここでは、模型写真が以下の3枚 (pl. 6 [西洋美術館屋根伏俯瞰]、pl. 12 [全体計画、全景俯瞰]、pl. 15 [全体計画、西洋美術館正面視]) に限定され、図面プレートとスケッチプレートにおいては、pl. 16 (全体計画の配置図) のみが省略されている。それは、西洋美術館の計画により焦点を絞ったポートフォリオの簡略版が構想された可能性を示唆している。だとすると、このポートフォリオが別のポートフォリオ作成のために使用されたことになり、同ポートフォリオがオリジナル(正本)でなく、試作品である可能性を示唆している。
- 13 西洋美術館蔵で「6」と記されたpl. 11は、資料館蔵で「1」と記されたpl. 6から6枚目に当たるという対応関係が認められる。この番号付けは資料館の裏面に記された番号とは一致しない。
- 14 山名は「初期案」と記し、実現案につながる基本設計案と区別している(山名, 2018, p. 176)。以下に同じ位置に斜路が配置された財団蔵の日付(作成年月日) 付き図面を列挙する(年-月-日-FLC図面番号-署名):
- 56-3-07-24640-Maisonnier,
56-3-09-24670,
56-4-04-24647,
54-4-23-24669-Maisonnier,
56-4-24-24635-Maisonnier.
- その後、5月25日以降の日付(作成年月日) の図面では斜路の位置が基本設計案と同じ位置に変更された:
- 56-5-25-24686,
56-5-35-2471-5-Maisonnier,
56-5-29-24692,
56-5-29-24696,
56-5-30-24724,
56-5-30-24714-Maisonnier.

参考文献(発行年代順)

- ボジガー, W. 編: 〈ル・コルビュジェ〉全作品集1946-1952, A.D.A. EDITA Tokyo, 1978 (Boesiger, W. ed.: *Le Corbusier Œuvre complète 1946-1952*, Les Éditions d'Architecture (Artemis), Zurich, 1953の邦訳版)
- ボジガー, W. 編: 〈ル・コルビュジェ〉と彼のセーヴル街35番地のアトリエ全作品集1952-1957, A.D.A. EDITA Tokyo, 1977 (Boesiger, W. ed.: *Le Corbusier Œuvre complète 1952-1957*, Les Éditions d'Architecture (Artemis), Zurich, 1957の邦訳版)
- 寺島洋子編: 開館50周年記念ル・コルビュジェと国立西洋美術館, 国立西洋美術館/ (財) 西洋美術振興財団, 2009
- 藤木忠善: ル・コルビュジェの国立西洋美術館, 鹿島出版会, 2011(第2刷2016)
- 文化庁監修: ル・コルビュジェ×日本 国立西洋美術館を建てた3人の弟子を中心に, 文化庁, 2015
- Le Corbusier Plans Online*, Fondation Le Corbusier et Echelle-1, 2015
- 千代章一郎: ル・コルビュジェ図面撰集—美術館編—, 中央公論美術出版, 2016

- 加藤道夫：コーラとしての建築へー ル・コルビュジエの《国立西洋美術館》一、図学研究, 51 (152), pp. 6-12, 2017 (初出：日本図学会2016年度春季大会講演論文集)
- 寺島洋子, 千代章一郎編：ル・コルビュジエの芸術空間——国立西洋美術館の図面からたどる思考の軌跡, 国立西洋美術館／(財) 西洋美術振興財団, 2017
- 山名善之：世界遺産 ル・コルビュジエ作品群 国立西洋美術館を含む17作品登録までの軌跡, ToTo 出版, 2018

謝辞

西洋美術館蔵ポートフォリオの調査に当たっては、コロナ禍の中、国立西洋美術館のご厚意により、複数回の閲覧機会をいただいた。仲介の労をとっていただいた前副館長の村上博哉氏ならびに閲覧に立ち会っていただいた川口雅子氏に感謝の意を表する。

(2021年5月9日原稿受理)